

日本神経内分泌学会 評議員会・総会 議事録

日 時 : 2012年9月28日(金) 12:00~13:00

場 所 : 北九州国際会議場 11 会議室 (1 階)

議 題 :

1. 役員改選の件 (審議事項)
2. 定款等改正の件 (審議事項)
3. 2011 年度庶務報告の件 (報告事項)
4. 2011 年度決算報告、2012 年度見込み、および 2013 年度予算の件 (審議事項)
5. 2014 年度学術集会会長の件 (審議事項)
6. 名誉会員、功労評議員の件 (審議事項)
7. 評議員再任、新評議員の件 (審議事項)
8. 特別功労賞、川上賞、若手研究助成金の件 (審議/報告事項)
9. 若手研究奨励賞の件 (報告事項)
10. Newsletter 発行の件 (報告事項)
11. 第 40 回学術集会の準備状況 (報告事項)
12. その他
 - 会費長期滞納者の件 (報告事項)
 - 日本脳科学関連学会連合について (報告事項)
 - 日本生理学会との連携シンポジウムについて (報告事項)

評議員会・総会の開会にあたって、大磯理事長より出席者の確認があり、定款第 20 条及び第 25 条の定足数(評議員会 68 名、総会 182 名)を満たす出席者(評議員会 72 名、総会 221 名、委任状を含む)となり、本評議員会・総会は成立する旨の報告があった。

引き続き定款 23 条により、上田学術集会会長が議長に選出され、上田会長の司会により議事が行われた。

1. 役員改選の件 (審議事項)

大磯理事長より、役員改選経緯(2012 年 2 月の選挙と 2012 年 4 月の理事会における選挙選出次期理事 11 名(今回理事長は留任)の承認)の説明があり、続いて理事長推薦の理事(4 名)及び監事(2 名)について後述のような提案があった。本提案について満場一致で承認された。

任期：2012年9月29日～2014年総会日

理事長	<small>おおいと</small> 大磯 ユタカ	名古屋大学大学院 医学研究科 糖尿病・内分泌内科学
庶務常務理事	<small>しまづ あきら</small> 島津 章	国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター
庶務担当理事	<small>いとい けいいち</small> 井樋 慶一	東北大学大学院 情報科学研究科 情報生物学分野
庶務担当理事	<small>おなか たつし</small> 尾仲 達史	自治医科大学 神経脳生理学講座
庶務担当理事	<small>おがわ よしひろ</small> 小川 佳宏*	東京医科歯科大学 医学部 糖尿病・内分泌・代謝内科
会計常務理事	<small>いわさき やすまさ</small> 岩崎 泰正	高知大学 臨床医学部門 保健管理センター
会計担当理事	<small>おざわ ひとし</small> 小澤 一史	日本医科大学 解剖学講座（生体構造学）
会計担当理事	<small>たかの こうじ</small> 高野 幸路*	東京大学 医学部附属病院 腎臓・内分泌内科
企画広報常務理事	<small>うえた よういち</small> 上田 陽一	産業医科大学 医学部 第一生理学
企画広報担当理事	<small>おき ゆたか</small> 沖 隆	浜松医科大学 第二内科
企画広報担当理事	<small>なかお かずお</small> 中尾 一和	京都大学大学院 医学研究科 内科学内分泌代謝内科
企画広報担当理事	<small>にし まゆみ</small> 西 真弓*	奈良県立医科大学 第一解剖学講座
次世代育成常務理事	<small>なかざと まきみつ</small> 中里 雅光	宮崎大学 医学部 内科学講座神経呼吸内分泌代謝学
次世代育成担当理事	<small>かんがわ けんじ</small> 寒川 賢治	国立循環器病研究センター研究所
次世代育成担当理事	<small>かわた みつひろ</small> 河田 光博	京都府立医科大学大学院 医学研究科 生体構造科学部門
次世代育成担当理事	<small>かわみなみ みつもり</small> 汾陽 光盛**	北里大学 獣医学部 獣医生理学
監事	<small>まえだ けいいちろう</small> 前多 敬一郎*	東京大学大学院農学生命科学研究科動物育種繁殖学教室
監事	<small>ありた じゆん</small> 有田 順*	山梨大学大学院医学工学総合研究部 第一生理

*： 理事長推薦 (**：下垂体研究会推薦)

2. 定款等改正の件（審議事項）

島津庶務常務理事より理事会での討議結果に基づいて、選挙選出理事の任期を2年から2年2期に変更すること、及び学会賞の創設に関して、定款（第14条及び第31条）の改正の提案があった。

また、現在会長（学術集会会長）の任務として定款に記載されている、日本内分泌学会理事会へのオブザーバーとしての出席を、現状に合わせて、理事長の職務とするように定款（第12条及び第26条）を改正したい、との提案があった。

定款の改正（改正は、理事会、評議員会及び総会の議決を経ること）

改正案（新）	現行（旧）
第12条 理事長は、本会を代表し会務を統轄する。 2. 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けた	第12条 理事長は、本会を代表し会務を統轄する。 2. 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けた

<p>ときは、あらかじめ理事長が指名した順序により、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。</p> <p>3. 理事は理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、本会の総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。</p> <p>4. 理事は理事長の業務を補佐する。</p> <p>5. 理事長は必要に応じ、本会の運営に必要な研究賞選考委員会などの諸種委員会の設置および委員の委嘱を行なうことができる。</p> <p>6. <u>理事長又はその代理者は、日本内分泌学会との十分な連絡を図るため、日本内分泌学会理事会にオブザーバーとして出席する。</u></p>	<p>ときは、あらかじめ理事長が指名した順序により、理事がその職務を代理し、又はその職務を行う。</p> <p>3. 理事は理事会を組織して、この定款に定めるもののほか、本会の総会の権限に属する事項以外の事項を議決し、執行する。</p> <p>4. 理事は理事長の業務を補佐する。</p> <p>5. 理事長は必要に応じ、本会の運営に必要な研究賞選考委員会などの諸種委員会の設置および委員の委嘱を行なうことができる。</p>
<p>第14条 理事長の任期は4年とする。</p> <p>2. <u>理事の任期は2年とする。評議員の投票により選ばれた理事は理事会の推薦および評議員会・総会の選任決議を経て、連続してもう1期再任できる。所定の任期終了後も評議員の投票または理事長の推薦により再選された場合には重任を妨げない。</u></p> <p>3. 監事の任期は2年とする。連続する場合は1期に限り再任できる。</p> <p>4. 役員の任期は学術集会時の総会の日からはじまり、それぞれ定められた任期を経た後の学術集会時の総会の日をもって終了する。</p> <p>5. 役員は65歳の誕生日を迎えた後は、現在の任期を終了した後、更に再任されることはない。</p>	<p>第14条 理事長の任期は4年とする。</p> <p>2. 理事の任期は2年とする。評議員の投票または理事長の推薦により再選された場合には再任を妨げない。</p> <p>3. 監事の任期は2年とする。連続する場合は1期に限り再任できる。</p> <p>4. 役員の任期は学術集会時の総会の日からはじまり、それぞれ定められた任期を経た後の学術集会時の総会の日をもって終了する。</p> <p>5. 役員は65歳の誕生日を迎えた後は、現在の任期を終了した後、更に再任されることはない。</p>
<p>第26条 会長はその年度の学術集会に関わる任務を遂行する。<u>(以下削除)</u></p>	<p>第26条 会長はその年度の学術集会に関わる任務を遂行すると同時に、日本内分泌学会との十分な連絡を図るため、日本内分泌学会理事会にオブザーバーとして出席する。</p>
<p>第31条 神経内分泌学の領域において優れた業績をあげた研究者に対し、別に定める規程に基づき、</p>	<p>第31条 神経内分泌学の領域において優れた業績をあげた研究者に対し、別に定める規程に基づき、研</p>

<p>研究賞を授与する。また、基礎的研究の発展を推進するために若手研究助成金制度を設け、別に定める規程に基づき助成を行う。</p> <p>2. 本会の目的の達成または事業の遂行に関し特段の功績のあった者に対し、別に定める規程に基づき、特別功労賞を授与する。</p> <p>3. <u>学会業績が卓越しており、かつ指導的立場で学会活動に精勤している者に対し、別に定める規程に基づき、学会賞を授与する。</u></p>	<p>究賞を授与する。また、基礎的研究の発展を推進するために若手研究助成金制度を設け、別に定める規程に基づき助成を行う。</p> <p>2. 本会の目的の達成または事業の遂行に関し特段の功績のあった者に対し、別に定める規程に基づき、特別功労賞を授与する。</p>
---	---

定款の改正について、特に質疑はなく満場一致で承認された。

(事務局注：選挙選出理事の任期の変更は、次回の選挙で選出された理事から適用される)

続いて、島津理事より、学会賞の新設に伴い学会賞内規の新設、及び川上賞、若手研究助成金、若手研究奨励賞の年齢に関する内規・規定の改正について、下記の要約の通り理事会で承認されたとの報告があった。

【学会賞内規新設の要約】

受賞対象者：学会業績が卓越しており且つ指導的立場で学会活動に精励している、受賞する学術集会の年度末に 65 歳以下、会員歴 15 年以上の会員で、理事または学術集会会長の経験を有する者。評議員または功労評議員により推薦される。当該年の 1 月末日を締切とする。

選考委員会の構成：選考委員会は理事長、庶務、次世代育成、会計、企画広報の各常務理事からなり、委員長は理事長とする。但し候補者が選考委員の場合は、選考に加わらない。

表彰：学術集会開催期間中に表彰を行う。賞状並びに副賞（10 万円以内程度）を授与する。

【川上賞に関する選考規定の改正】

「個人および共同研究の構成員は日本神経内分泌学会会員で 5 年以上の会員歴を有し、かつ本学会において 3 回以上の筆頭発表歴を有すること。受賞後も本学会の活動に貢献すること。」を追加。受賞者の年齢を学術集会時 4 5 歳未満から「学術集会の年度末に 4 5 歳以下」に変更。

選考委員会の構成について、「次世代育成担当理事の互選により選ばれた 3 名（内 1 名は常務理事）、次世代育成担当理事が推薦する評議員 3 名に、当該年度の学術集会長を加えた 7 名とする。委員長は次世代育成常務理事が務める。評議員から選出された 3 名の任期は 2 年とし、重任はできない。」に変更する。

【若手研究助成金の規程、若手研究奨励賞について、の年齢に関する改正】

受賞者の年齢を数える時点を「学術集会時」から、「受賞する学術集会の年度末」に変更する。

若手研究助成金について、受賞者の年齢を「学術集会の年度末」に40歳以下に変更する。

若手研究奨励賞については、受賞者の年齢を「学術集会の年度末」に35歳以下に変更する。

3. 2011年度庶務報告の件（報告事項）

島津庶務担当筆頭理事より、2011年度の庶務報告があり、2011年度の会員数については会費未納者の整理を行ったため若干落ち込んだ、との説明があった。一方、2011年度の新入会員は19名であった。現在の会員数は544名である。また、第38回学術集会（東京）、評議員会・総会（同）、理事会（同）、会誌発行等の2011年度の事業報告が行われた。

大磯理事長から会員の減少傾向について危機感を持っており、常務理事会等で検討しているところである、今後も評議員・会員の協力を得てより魅力的な学会とし、（特に若い先生の）会員を増やしていきたい、との追加発言があった。

4. 2011年度決算報告、2012年度見込み、および2013年度予算の件（審議事項）

岩崎会計担当常務理事より、2011年度収支決算が報告された。収入の部では、正会員・賛助会員ともに予算（予想）を上回る納入があった。支出については、若手研究助成金が2名の予算のところ1名のみであったこと、管理費等をできるだけ削減したこと、などから予算を下回った。結果として、2011年度決算は当初の赤字予想から大幅な黒字となった。

また、第38回学術集会の会計についても報告があった。

佐久間監事から、両決算は適正に執行されていることを確認した、との報告があった。

特に質問はなく、この2011年度の決算は満場一致で承認された。

続いて、岩崎理事より2012年度収支見込み2013年度予算について説明があった。2013年度予算については、日本脳神経財団からの助成金が半減するものの、純繰越金に余裕があることと、常務理事を中心に新たな財源を開拓中であることから、ほぼ例年と変わらない予算を組んだ。なお、学会賞の新設と川上賞副賞の増額に対応したとのことである。

2012年度決算見込み及び2013年度予算も異議なく承認された。

5. 2014年度学術集会会長の件（審議事項）

大磯理事長から、前日の理事会で2014年度学術集会の会長に岩崎泰正教授（高知大学）を選出したと報告があり、満場一致で承認された。

6. 名誉会員、功労評議員の件（審議事項）

島津庶務担当常務理事より、前日の理事会の討議に基づいて橋本浩三功労評議員（第29回会長・理事を歴任、現在 特定医療法人 仁生会 細木病院院長）を名誉会員に推薦したいとの提案があり、満場一致で承認された（評議員会で承認、総会には報告）。

続いて島津理事より、同様に理事会より千原和夫評議員（第27回会長・理事・理事長を歴任、現在 兵庫県立加古川医療センター 院長）、佐久間康夫評議員（第33回会長・理事・監事を歴任、現在 東京医療学院大学 学長）、須田俊宏評議員（第31回会長・理事・理事長を歴任、現在 青森労災病院院長）、加藤進昌評議員（現在 昭和大学 教授）、石橋みゆき評議員（監事を歴任、現在 築根クリニック 副院長）、森昌朋評議員（第34回会長・理事・監事を歴任、現在 群馬大学 教授）、武谷雄二評議員（現在 東京大学 教授）、芝崎保評議員（第35回会長・理事を歴任、現在 日本医科大学 教授）、本間さと評議員（現在 北海道大学 教授）の9名を功労評議員に推薦したいとの説明があり、満場一致で承認された。

7. 評議員再任、新評議員の件（審議事項）

島津庶務担当常務理事より評議員の再任（再任評議員任期：2012年9月29日～2016年総会日）について説明があり、以下の23名の評議員の再任が満場一致で承認された。

阿部 廣己	和泉 俊一郎	井樋 慶一	岩下 光利	太田 耕造
小川 佳宏	置村 康彦	加治 秀介	片上 秀喜	亀谷 純
島津 章	末丸 修三	高尾 俊弘	高野 幸路	高橋 裕
伊達 紫	田村 秀樹	塚田 俊彦	戸澤 史子	新見 道夫
西塚 雅子	船橋 利也	美津島 大		

さらに島津理事より以下の4名の新評議員について説明があり、全員の評議員就任が満場一致で承認された。

氏名 (申請順)	所属	備考
うちだ かつや 内田 克哉	東北大学 大学院 情報科学研究科	基礎
ねもと たかひろ 根本 崇宏	日本医科大学	基礎
ふくしま あつし 福島 篤	聖マリアンナ医科大学 生理学教室	基礎

<small>かわみなみ みつもり</small> 汾陽 光盛	北里大学 獣医畜産学部	基礎
---	------------------------------	-----------

8. 特別功労賞、川上賞、若手研究助成金の件（審議／報告事項）

上田会長（特別功労賞選考委員長）より、特別功労賞選考委員会（持ち回り審議）の結果、吉田尚名誉会員（第18回会長・幹事・理事を歴任、千葉大学・自治医科大学名誉教授）及び廣重力名誉会員（第16回会長・幹事・理事を歴任、北海道大学名誉教授、北海道医療大学 名誉学園長）を特別功労賞受賞者に選考したとの報告があり、満場一致で承認された。

また上田会長（川上賞選考委員長）より、十枝内厚次会員（宮崎大学）が川上賞受賞者に決定したとの報告があった。

さらに上田会長（若手研究助成金選考委員長）より、後藤（山田）伸子会員（京都大学）の「報酬系神経回路から見た過食メカニズムの病態解明と肥満症の治療戦略」に若手研究助成金を授与することに決定したとの報告があった。

9. 若手研究奨励賞の件（報告事項）

上田会長（YIA 選考委員長）より、本年 8 件の応募があり、先ほどの選考口演と引き続き開かれた選考委員会で、塚本尚子会員（岡山大学）、高浪景子会員（京都府立医科大学）、萩原大輔会員（名古屋大学）の 3 名の受賞者が選出された、との報告があった。

10. Newsletter 発行の件（報告事項）

上田企画広報担当常務理事から、Newsletter No. 15 と No.16 を予定通り発行したこと、次の No. 17 は、今回の第 39 回学術集会の内容報告を中心に 2012 年 12 月に発行の予定との、報告があった。

11. 第 40 回学術集会の準備状況（報告事項）

第 40 回会長の中里理事より、第 40 回学術集会の概要について、「inspire a generation : 日本の神経内分泌学研究のレガシーを次世代へ」をテーマとして、2013 年 10 月 25 日～26 日に宮崎市民プラザで、日本比較内分泌学会と合同開催するとのスライドを用いた紹介があった。現在プログラム委員会を立ち上げて内容を検討中であるが、特別講演、シンポジウム 3 題、テクニカルセミナー等、若い方のアイディアも取り入れた新しいスタイルの学術集会を考えている、とのことであった。

12. その他

■ 会費長期滞納者の件（報告事項）

島津庶務担当常務理事より、2011年度末までの3年間の滞納者29名があり、事務局から再度会費納入をお願いするが本年度末までに会費納入がないときは自然退会（会費納入のあった最終年度で退会処理）とする、との報告があった。

■ 日本脳科学関連学会連合について（報告事項）

上田常務理事（脳科学関連学会評議員）より、日本の脳科学に関連する19学会が集まって作る「日本脳科学関連学会連合」に本学会も参加することになり（理事会で承認）、7月1日に第一回評議員会が開かれて正式に発足した（代表に日本神経科学学会からの宮下保司評議員を選出）との報告があった。この学会連合では、特に政府の脳科学に関連する施策（予算等）について、積極的に意見を表出することが期待されている、とのことである。

■ 日本生理学会との連携シンポジウムについて（報告事項）

島津庶務担当常務理事より、来る2013年3月27日～29日に東京で開催される日本生理学会で、当学会との連携シンポジウム（性ステロイド中枢作用を仲介する新規分子／細胞機構）を開きたいとの依頼があり理事会で承諾した、との報告があった。

第41回会長に決まった岩崎理事より、第39回上田会長、第40回中里会長の後を継いで、素晴らしい学術集会としたいので、皆様からのご意見等をいただきたい、とのご挨拶があった。

最後に、第39回学術集会の上田会長のご挨拶があり、事前登録者が122名で、さらに当日の登録で参加者が増える様子で喜んでいる、「国際神経ペプチド学会日本支部シンポジウム」や、アジア・オセアニアとの連携の企画（シンポジウム）も好評の様子で、最後まで活発なご討議をお願いしたい、とのことであった。

続いて、大磯理事長から神経内分泌学会の活性化について、学会のアイデンティティが必ずしも広く知られていないことから、今回、学会賞の創設やプログラム委員会を通じて若手～中堅の研究者に神経内分泌学のしっかりとしたイメージ持ってもらうよう努力していること、財政面が今後苦しくなることから企業から助成金を集めて若手の研究の援助をすること、賛助会員からの会費収入を増やすこと、厚労省からの班研究への研究費の受け皿として学会も加わることなど、を考えている、との追加の発言があった。

その他、壇上の常務理事から、参加者全員が「行ってよかった」といえる学術集会を目指す、若手（次世代）の評議員を増やして評議員会を活性化する、学術集会に非会員の先生を積極的に招待し（本会の良さを知ってもらって）会員になってもらう、ように取り組ん

でいるとの発言があり、さらに関連する企業（製薬会社だけでなく実験機器メーカーなど）にも理解を求めて援助してもらえるよう、フロアの先生方にもご支援いただきたいとの、希望もあった。大磯理事長から、これら学会の活性化（特に会員増、財政の安定化）の取り組みを積極的に行いたいと考えており、今後ともご理解・ご協力をお願いしたい、とのまとめがあった。

（理事長、各常務理事 校閲済）